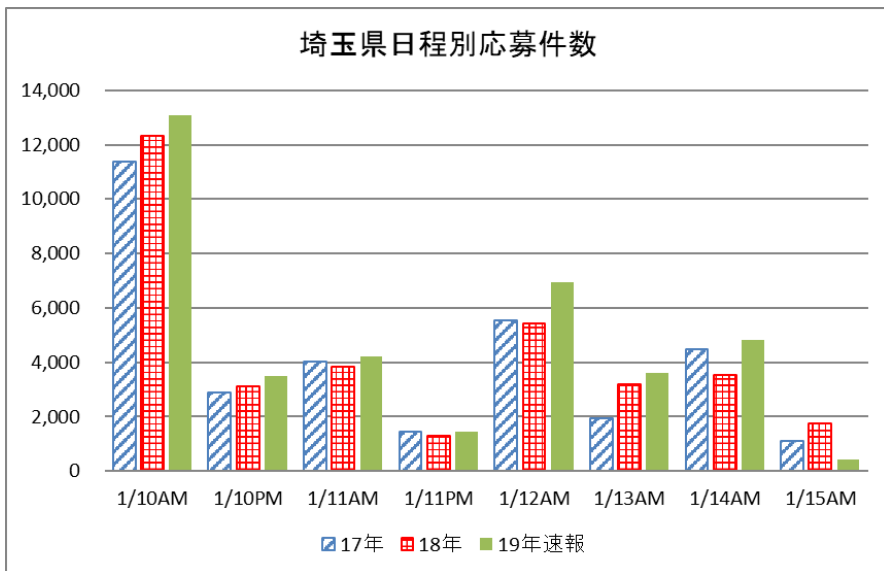


埼玉県私立中入試概況

1. 概況 応募者数・実受験者数とも大幅増加、中学受験は難化傾向

埼玉県内の公立小6児童数は約63,000名で昨年より約1,700名増加しています。県内の公立中高一貫校を含む中学入試の応募総数は、2月15日現在では約50,200件で、昨年の最終は約45,700件でしたから、約4,500件の大幅な増加です。入試結果未公表の学校や3月になってから実施される入試などもあるため、最終的な応募総数はもう少し増える見込みです。昨年は一昨年より約2,000件増えていましたから、増加のペースも大きくなっています。実際の受験者



数も2月15日現在の速報値で約39,600名と、昨年最終を約3,100名上回っていて、今後もう少し上乘せされるでしょう。応募者数・実受験者数ともに増加が続いている理由は、①今年には県内に新設校として公立一貫校のさいたま市立大宮国際中等教育学校と、私立の細田学園中学校が募集を開始し、中学受験のすそ野が広がったこと、②東京都心部から始まった中学受験志向が昨年より県内にも広がって、加速していること、③公立小学校の卒業生が増加していること、④曜日の関係で、東京都や神奈川県を受験生の「お試し受験」先になっている地方寮制校の入試日程が、埼玉県の私立中入試解禁日(1月10日)の後になった学校があり、「お試し受験」組の一部が埼玉県に流れてきたこと、の4つでしょう。

2月15日現在の合格者数は、全県合計で約20,700名でした。この数字にはコース制実施校での上位コース入試で、入り易いコースへのスライド合格や、特待入試での一般合格は含んでいない学校がありますから、「入学できる」という意味の合格者数はもっと多くなりますが、同じ基準で集計した昨年最終の合格者数より100名しか増えていませんから、その分難化した入試になっています。ただ、全校が難化したわけではな

く、人気が一瞬で応募者が減った学校もあります。

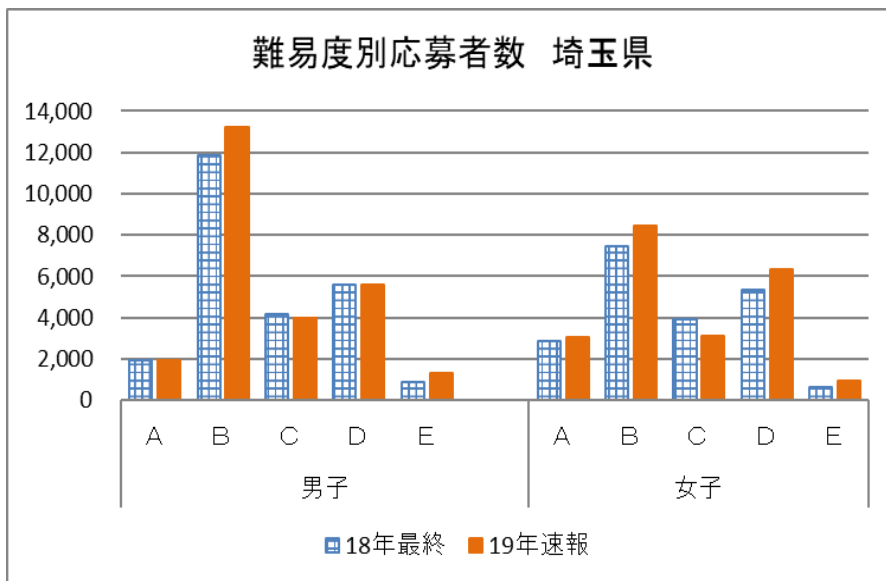
上のグラフは、県内中学入試の日程別の応募者数の合計を一昨年、昨年と比較したもので、今年速報値です。私立・公立一貫校合計です。本来は国立の埼玉大附属も含むところですが入試が2月1日でグラフには含まれていません。今年の応募総数では1月10日午前が13,000件を超えていて、次点の12日午前の1.9倍です。昨年との比較では、1月10日午前と12日午前、14日午前の応募者がかなり増えていて、15日午前が減っていますが、他の日程も小幅ながら増加です。

昨年との比較では12日午前が約1,500名増えていますが、市立浦和と伊奈学園が昨年の13日午前から移ったことが一番の理由です。13日午前は、この両校がいなくなっても約400名の増加ですが、市立大宮国際の開校が主な増加要因で、他に春日部共栄の日程移動なども増加に寄与しています。14日午前も約1,300名増えていますが、開智の日程移動が主な要因で、15日午前の激減も同じ理由です。応募総数最大の10日午前は毎年増えていて、今年も800名近く増えました。開智と大宮開成が増加の中心です。

次に、難易度による志望校選択の傾向を見てみます。次のページのグラフは、各校の応募者数を難易度別に

上からA～Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べたものです。グルーピングは各年の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年の受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外しています。共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応募者数の半分ずつをそれぞれ男子・女子で合計しました。昨年は昨年用の予想難易度、今年は今年用の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年最終と今年とでは異なる場合があります。

男女ともBグループが最多ですが、男子では応募総数の5割を占めるのに対して、女子では4割弱で、男子のBグループ集中が目立ちます。男子はBグループが昨年より増えていて、「最上位は狙わないものの、その次には」といった意識がさらに強くなっています。開智や大宮開成の特待が増加の中心です。A・C・Dグループはほぼ昨年並みの応募者数ですが、最少のEグループが少し増えています。女子もBグループが増えています。Dグループも増えていて、Cグループはやや減っています。Bグループの増加は男子と同じで開智や大宮開成の特待が増加の中心です。やはり「最上位までの高望みはしないけれど、せめて…」という気持ちでしょう。Dグループの増加は、中高一貫教育への期待ですが、Eグループの学校にはあまり魅力を感じていないようで、こちらも「Dグループまでには」の意識です。以下、各地域別に入試状況を見ていきます。なお、市立浦和高校附属と伊奈学園については、公立一貫校のページをご覧ください。



- ◎ 難易度別グルーピング
- 本資料集では出願動向の分析のため、各校の代表的な入試難易度で埼玉県私立中を次のようにグルーピングしました。学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。
- A…浦和明の星・栄東(東大)
 - B…大宮開成(特待)・開智(先端・一般)・栄東(難関大)・淑徳与野・城北埼玉(特待)・立教新座・開智未来(T未来)
 - C…大妻嵐山(奨学)・大宮開成(英数特科)・開智未来(未来)・埼玉栄(医学・難関大)・埼玉大附属・昌平(T)・城北埼玉(一般)・西武台新座(特待)・西武文理(特選特退含む)・星野学園(理数)
 - D…浦和実業・大妻嵐山(一般)・開智未来(開智)・春日部共栄・埼玉栄(進学)・狭山ヶ丘高附属・城西川越(特選)・昌平(一般)・西武文理(一般)・西武台新座(特待以外)・聖望学園(特待)・東京農大第三・獨協埼玉・武南・星野学園(進学・総合)・細田学園(特待)・本庄東高附属
 - E…青学浦和ルーテル・大妻嵐山(まなび力・未来力)・国際学院・埼玉平成・自由の森学園・秀明・城西川越(一貫)・聖望学園(一般)・東京成徳大深谷・細田学園(一般)・本庄第一

2. さいたま市・その周辺地域

今年も応募者数日本一の**栄東**から。同校は東大選抜Ⅱに算数入試を4科との選択で実施しました。思考力重視の出題も見られました。各回合計の応募者数は、昨年よりやや減っていますが、1,050件増加して1万1,412件と、今年も1万件的の大台が続いていて、断然日本一です。同校は1月10日のA日程だけでも帰国生を含めて6,174名の応募者数、実受験者数も6,085名で、こちらも1回の入試としては日本一の規模です。算数入試を新設した東大選抜Ⅱは応募者が増えて4科

の合格最低点も少し上がっています。算数入試は今年からですが、難度的には4科とあまり変わらなかったようです。他の回次は、各回次ともやや合格最低点が下がっていますが、出題が少し得点しにくかったようです。以前は「入試のやり方」で、都内や神奈川からの受験生を集めるべく、様々な施策を行っていましたが、近年は教育の中身の強化に取り組んでいて、算数入試の実施や、入試問題が得点しにくくなったことも、中身の強化の一環でしょう。

栄東のライバル校、**開智**は先端A・B入試の日程を繰り上げました。各回合計の応募者数は増加、特に1月10日の一貫1回と11日の先端特待が増加の中心です。応募者の増加傾向が今年も続いていて、人気が上がっています。合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度に変化は見られませんでした。**大宮開成**は、入りやすいコースの特進の募集を停止、コースとしては英数特科に統一するとともに、特待入試と英数特科入試の2本立てとしました。通常、このような施策を行うと受験生に敬遠傾向が生まれるので、減少を覚悟でレベルアップのために実施するケースが多いのですが、同校は増加しました。昨年に続く増加です。今回の施策を支持する受験生が多いわけで、受験生の期待感の表れです。特待入試の合格最低点は昨年並み、英数特科入試は昨年よりも下がっていますが、昨年の特進よりは上がって、その分少し難化したこととなります。

栄東の系列校、**埼玉栄**は、医学・難関大クラスの入試を1月13・14日にも増設しました。各回合計の応募者数は昨年に続いてやや増えていますが、内訳を見ると医学・難関大クラスは増えているものの、入りやすいコースの進学クラスが減少していて、受験生の上位コース志向が表れています。合格最低点は、新設の1月13・14日の医学・難関大クラスが、10・11日午前より少し高い水準で、遅い日程でも上位クラスに再挑戦したい受験生を迎えたい姿勢がうかがえました。既存の回次では10日午後の難関大クラスが上がっていますがその他は昨年とあまり変わっていません。

浦和実業は3回の入試日程を変更しています。各回合計の応募者数は増えていて、増加の中心は1月10日午前午後の特待入試と10日の適性検査型入試です。併願受験生が多く、新設開校の市立大宮国際の併願受験生も見られました。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は受験者数の増加以上に増えていて、合

格最低点は、1月14日の2回適性検査型が上がっているものの、他の回次は全体に少し下がっています。少し入り易くなったかもしれません。**武南**は適性検査型入試を新設しました。2013年度に開校した同校は、今春中高一貫1期生の大学合格実績が出ることから、受験生の認知度が今一つで、各回次合計の応募者数は適性検査型の新設で増加したものの、まだ小規模な状況です。合格最低点は回次によって上下していますが、不合格者が少ないことから、難度面では昨年とあまり変わっていないようです。

浦和ルーテルは青山学院大学の系属校となり、校名も「青山学院大学系属浦和ルーテル学院」に変更します。基本的に小中高一貫校のため、入試も小規模で2016年までは1月10日には入試を設定しないなど、県内他校とは一線を画していましたが、一昨年から英語入試や自己アピール入試、適性検査型入試も新設するようになりました。こうした積極策で昨年も応募者は増えていましたが、受験生・保護者への浸透はあまり大きくはなく、小規模な入試が続いていました。それが青山学院大学の系属化で、一気に大幅な応募者の増加となっています。もちろん、栄東の1万名越えは別としても、県内の多くの学校が1,000名以上の応募者がある中ではまだまだ少ない応募者数ですが、青山学院大手系属化が受験生に魅力的に映りました。併願受験生も多かったようですが、少し難化したようです。

国際学院は、1月10日に適性検査型入試を新設、4・5回の日程を繰り上げるなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は大きく増えていて、実際の受験者数、合格者数も増えていますが、小規模な入試はまだ脱していません。難度もあまり変わっていないようです。なお、国立の**埼玉大附属**は2月15日時点で応募者数等が未公表です。

女子校では、**浦和明の星**は、昨年は1月14日の1回の応募者が少し減り、2月4日の2回が増えていましたが、今年は逆で1回が増加、2回がやや減っています。1回は合格者も増えていますが合格最低点は少し上がっていて、得点しやすい面はあったにせよやや難化したようです。2回は昨年並みでした。**淑徳与野**は昨年、1月13日の1回の応募者が前年並みだったものの、2月4日の2回は大きく減りましたが、今年は1・2回とも大きく増えて人気が上がっています。実際の受験者数も増加、1回は合格者も増えていますが、合

格最低点は少し上がっています。やや難化したようです。2回は合格者数を絞って実質倍率がかなり上がりましたが、合格最低点は昨年並みでした。

3. 東武東上線南部・西武線方面

男子校から見ていきます。**城西川越**は、3回の日程を変更しました。昨年は各回合計の応募者が減りましたが、今年は増加しています。1月10日午後と11日の特選、10日午前と11日午後の総合一貫とも増加して人気が上がっています。受験者数の増加に伴って合格者も増えていますが、特に10日午前の総合一貫1回、11日午前の特選2回は合格最低点が上がっていて、同校を高い志望順位で考えている受験生の学力が少し底上げされたようです。他の回次も昨年並みの合格最低点でした。

城北埼玉も各回の応募者が増えていて、特に1月12日・15日の1・2回が目立ちます。こうした状況を反映して、1・2回は合格最低点も上がっていて、特に2回は難化したようです。他の回次も昨年並みの難度だったようです。**立教新座**は、昨年は1月25日の1回の応募者がやや増えましたが、2月3日の2回は少し減っていました。今年は帰国生も含め、2回とも増加しています。大学附属校人気の表れです。例年通り補欠も出していますし、合格最低点も昨年並みのため、難度はあまり変わらない結果でした。

男女校では、新設開校の**細田学園**が、各回次合計で400名近い応募者を集めました。新設校で、受験生への浸透も今一つだったようで、3ケタの応募者があった回次はありません。合格最低点は特待入試が6割強から7割強程度、他の入試が6割弱の水準です。合格者数が少ない回次もあり、人数的にはともかく、一定の難度は保った入試だったようです。

既存校では、**西武文理**は1教科入試の算数・英語の日程を分割したり、適性検査型入試の日程を変更しました。各回合計の応募者数は昨年について増加しています。全体的に男子よりも女子の応募者が増えていて、女子の人気が上向いているようです。受験生が増えた分、合格者も増えていることもあって、難度面では特選・一貫の両コースの各回とも昨年とあまり変わっていないようです。**星野学園**は理数選抜と進学がそれぞれ2回、2コース合同の総合選抜入試1回の5回入試です。昨年について5回とも応募者が増えていて人気

が上がっています。もともと男子よりも女子の応募者が多い学校ですが、今年は男子も増えています。1月11日午後の進学コース入試は合格最低点の上昇が目立ちました。他の回次は昨年並みで、難度に変化はなかったようです。

狭山ヶ丘高付属は、昨年について今年も各回次とも応募者が少し減っています。一時期人気に陰りが出ていた西武文理が回復してきており、その影響も出ているようです。同校は2013年に開校していますから、中高一貫1期生の大学受験が現在進行していて、まだ実績が出ていないことも不利な点でしょう。実際の受験者数も少し減っていますが、合格者数も減らしていて、難度を維持した入試でした。**西武台新座**は特選・特進の2コース制で、それぞれ2回の入試と、2コース合わせた特選特進チャレンジ入試、特待入試の計6回の入試があります。1月11日午前の特進コース入試と、11日午後の特待入試は昨年並みの応募者数ですが、他の回次はやや減りました。合格最低点は昨年並みややや上がった回次もありますが、受験者数を勘案すると、1月10日午前の特進1回は少し入りやすくなったようで、他の回次は昨年並みの難度だったようです。

聖望学園は、1月12日午後、13日午前、18日午前の特奨・一般入試を11日午前に集約、適性検査型も13日午前から11日午前に前倒しにして、12日午前に英語入試、午後に得意科目入試、18日にプレゼン入試を新設しました。2月の入試も日程を前倒しにしています。応募者が多かった入試を集約していますから、各回次合計の応募者は減っていますが、実際の受験者数はやや増えました。合格者数も少し増えていますが、合格最低点が公表されている回次も含めて不合格者はあまり多くなく、各回次とも難度はあまり変わっていないようです。

全寮制の**秀明**は、入試日程などに一部変更がありますが、応募者数、受験者数、合格者数とも昨年並みで、難度も変わっていないようです。全寮制という性格上、今年も小規模な入試でした。独特な教育方針の**自由の森学園**は、入試日程などに一部変更がありました。本稿執筆時点でまだ終わっていない入試がありますが各回次合計の応募者数や受験者数は増えています。広報活動が活発になったからでしょう。ただ、今年も小規模な入試で、難度にも変化は見られませんでした。

4. 東武スカイツリーライン・伊勢崎線・日光線方面

獨協埼玉は昨年まで各回合計の応募者が少しずつ減っていましたが、今年は反転して各回次とも増えています。進学校志向が強い埼玉県ですが、同校は進学を重視しつつも、以前から探究的な取り組みにも力を入れていましたから、こうした点が受験生に評価されたのでしょう。受験者数も増えましたが、合格者数は昨年並みで、倍率面ではやや厳しくなっています。1月11日の1回は昨年並みの難度、2回はやや難化したかどうか、といったところですが、最終の3回は目立って難化したようです。**春日部共栄**はGE・GSの2コース制をとっていましたが、昨年から上位のGEコースのみの募集となりました。各回次合計の応募者数は一昨年は前年並み、厳密には若干減、昨年もやや減っていましたが、今年は増加しています。回次によって傾向は異なりますが、女子の応募者が増えた回次が多く、女子人気の回復が応募者増加に結び付きました。実際の受験者数、合格者数も増えていて、合格最低点は1月10日午後と最終の2月の入試が少し下がって入り易くなったようですが、他の回次は昨年並みでした。

昌平は、英語入試をグローバル入試として位置づけました。国際バカロレアの認定校ですから、その姿勢を明確にしています。各回次合計の応募者数は増加が続いていて、今年も増えていますが、上位コースのTクラス入試は1月10日午後も12日も昨年並みの応募者数で、増加の中心は2科4科の一般の入試です。実際の受験者数も昨年より100名以上増えていますが、合格者は30名程しか増えておらず、倍率面ではやや厳しくなっていて、合格最低点は一部に上下が見られるものの、出題内容の影響もあって、難度面では昨年とあまり変わっていないようです。

開智未来は昨年、総合型の探究入試の回数を増やし今年1月10・11日午前に配置するなどの変更がありました。こうした施策が受験生に支持されているようで、各回次合計の応募者は昨年に続いて増えています。昨年は男子の増加が目立ちましたが、今年は女子が目立ちました。1月12日午後の未来Bは合格最低点が少し上がっていますが、他の回次は概ね昨年並みで、難度面ではあまり変化がなかったようです。

5. 東上線北部・高崎線方面

大妻嵐山は1月11日午後1教科入試を新設するなどの変更がありました。昨年もプレゼン型入試やプログラミング入試を導入するなど、入試内容の変更が活発です。各回合計の応募者数は昨年に続き増加していて、特に1月12日の成績奨学生入試は増えています。合格最低点は回次によって上下していて、学校が期待するラインをクリアしたかどうかで合格最低点が決まっているようですので、難度面は各回次とも昨年とあまり変わっていないと考えてよいでしょう。

男女校では**東京農大第三**が、1月10日午後の2回特待入試を総合理科から、総合理科とことば力(資料の読み取り、表現など)の選択にしたほか、4回の入試日程を曜日の関係で1日前倒しにしています。10日午前の1回特待入試は男子の応募者が増えていて、午後の2回特待入試は総合理科の応募者は減ったものの、新設のことば力には総合理科を上回る応募者がありました。各回次とも不合格者はあまり多くなく、難度面はあまり変化がありませんでした。**埼玉平成**は小規模な入試の学校です。今年は英語入試と適性検査型入試を取りやめ、それぞれ実技型の英語・科学入試(プラクティカル入試)に衣替えしました。今年はまだ小規模ではあるものの、応募者がかなり増えましたが、増加の中心はプラクティカル入試ではなく、従来からの2科4科の入試です。新しいタイプはまだ受験生に浸透していないようです。合格最低点は少し変化していますが、難度面ではあまり変わっていません。

高崎線方面では、**本庄東高附属**が曜日の関係で3回の入試日程を変更しています。中学受験がまだ広がっていない地域事情もあって、各回次とも応募者は少し減っていますが、合格最低点は各回次とも上がっています。今年少し得点しやすい出題だった面もあるかもしれませんが、好調な大学合格実績を背景に、応募者が少々減っても、むしろレベルアップを図っている姿勢が表れています。2016年に開校した**本庄第一**も一部の入試日程を変更しました。本庄東の後発であることもあって、今年も小規模な入試です。**東京成徳大深谷**は、一部の日程変更のほか、英語入試を新設しました。やはり中学受験がまだまだ広がっていない地域事情もあって、今年も小規模な入試でした。